

ICFの視点で“その人らしい生活”を再構築できた事例



ICFの視点がつないだ在宅生活の未来

「転倒を繰り返し、2日間起き上がれなかつた90歳の方が、
ICFの視点と訪問型サービスCによって、
再び料理をし、地域活動に参加し、銀行まで歩けるようになりました。」

きづき居宅介護支援事業所
ショッピングリハビリ@沖縄city

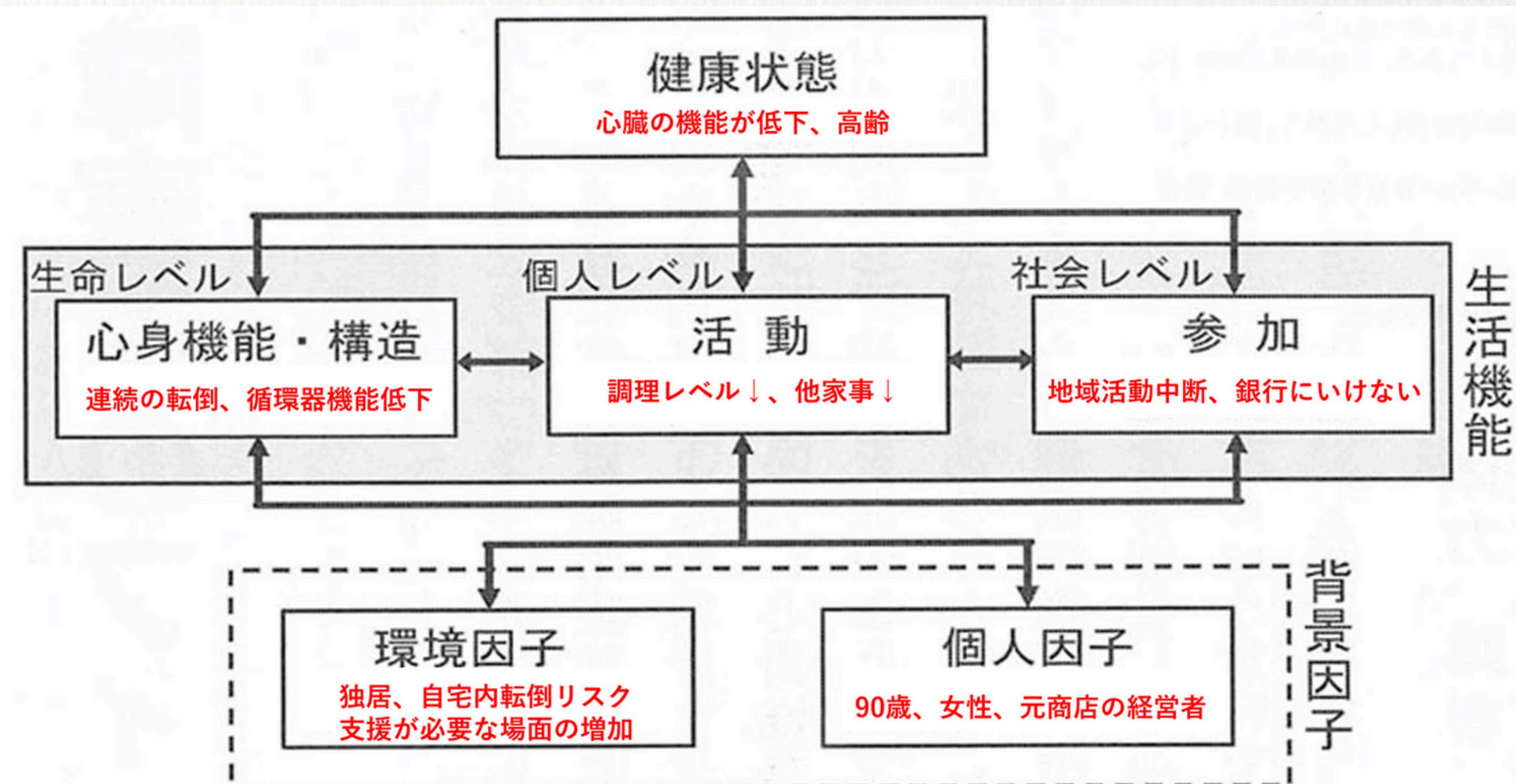
安里 究
我如古 純也

症例紹介

Sさん／90歳／女性／独居

- 発作性上室性頻拍、脳梗塞、高血圧、心不全、高K血症
- 状態変動が大きく、転倒の多発あり
- Sさんの希望：近所のスーパーに買い物に行く

ICF分析（本質的な課題）



ケアマネジャーによる判断

- 初回訪問の印象は在宅生活が長く続かない
- "生活が止まっていた"ことがICFの視点で理解
- 訪問型サービスC・ショッピングリハビリ導入の決断

時系列

- 3/5 : 訪問型サービスC開始（基幹型/理学療法士）
- 3/8 : ショッピングリハビリ開始
- 3/22 : 自宅内で転倒 → 2日間起き上がれず（スタッフが発見）
- 4/1 : 介護保険申請 → 事業対象者から 要支援2へ
- 5/1 : 杖調整（T字杖 → 自立式杖／訪問型Cにて選定）
- 5/7～5/10 : アブレーション術入院
- 6/1～7/31 : 訪問型サービスC延長
- 7/18 : 栄養指導開始(市民健康課/管理栄養士)

ADL・IADL



Before

【ADL】

移動：屋内外T字杖(見守り～軽介助)

入浴：見守り

排泄：自立

【IADL】

調 理：簡単な調理or惣菜

買 い 物：通路 1 往復ごとに休憩 (平均786歩)

外 出：地域活動不参加

銀行にも行けない状況

After

【ADL】

移動：屋内外自立式T字杖(自立～見守り)

入浴：シャワーチェアにて自立

排泄：自立

【IADL】

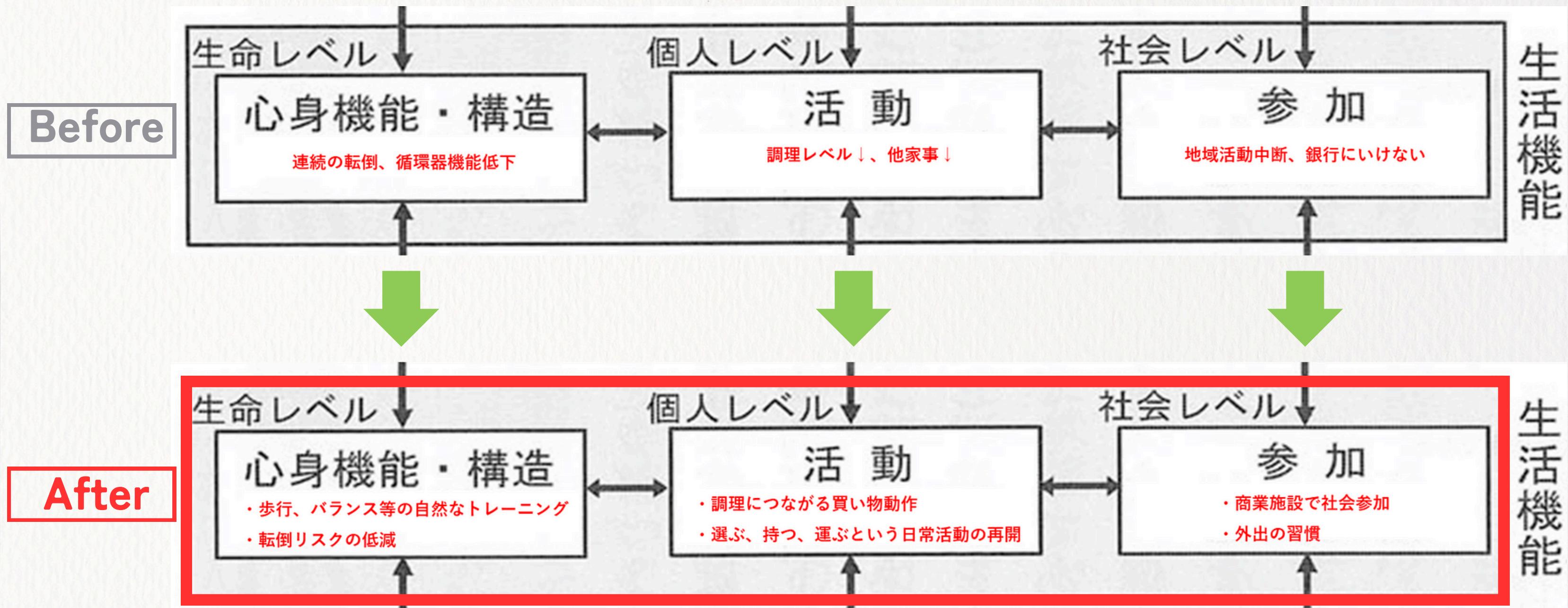
調 理：手の込んだ料理を再開

買 い 物：休憩なしで店舗 1周 (平均1077歩)

外 出：公民館活動へ参加可能

銀行まで歩行可能

ショッピングリハビリで介護予防



Sさんの現在の姿



在宅の限界値を押し上げた要因



- ケアマネジャーによるアセスメント
- 訪問型サービスCによる動機付けや提案
- ショッピングリハビリによる活動や役割の再開

「生活の再構築」という目標を三者が共通理解

まとめ

- ICFは"その人らしい生活を再構築する"ための視点
- 訪問型サービスCは活動と参加の再構築に最適な社会資源
- 適切な見極めと連携で方向性を統一し在宅の限界値は引き上がる

ご清聴ありがとうございました

熱意 × 専門力 × 考え方 = 在宅の限界値

(支援者・本人の情熱)

0 ~ +100

(多職種連携)

0 ~ +100

(ICFや適切なマネジメント)

-100 ~ +100

(在宅支援の結果)

-1,000,000 ~ +1,000,000